

1. 単元名

1年「項目を整理して伝えよう 案内文を作る」 2年「説明のしかたを工夫しよう」

2. 生徒の実態

単元の学習に関する実態		要因	付けたい力	指導の工夫
教科	・コレクションの王冠や切手などについて、自分の知識や経験を教師に進んで伝えようとするができる。	・興味関心のあることや経験したことについて伝えたい意欲がある		・伝えたい相手を決めてもらうことで、目的意識や相手意識がもちやすくなるようにする。
自立	・話題を決めるときに絞りきれず「どちらでもよい」と言って教師に決断をゆだねることが多い。	・結果の推測の弱さ ・自己理解の弱さ	・選択した結果を推測し、その予想から自分で選択決定することができる。	・選択する場面を設定する。 1つずつ教師と結果を推測していき、自分が一番できそうな選択肢を選ぶようにする。
	・小学校では最大で15分間学習に集中することができた。	・興味のないものへの集中力や忍耐力の弱さ		・コレクションという題材にすることで、興味が持続でき、書きたい、伝えたいという必然性を生み出す。
【 話すこと・聞くこと 】				
教科	・話す速度や音量、言葉の調子の知識を生かして、思いが伝わるように音読することができる。 ・基本2組の仲間の前で発表することができたが、聞き手の反応を確かめて話すことができなかった。	・既習学習が理解できている ・不慣れな人前で発表する場面での過度な緊張	・聞き手の受け止め方や理解の状況を確認して話すことができる。	・聞き手の表情を見たり、確認したりしながら話す練習を繰り返すする。
自立	・自分の考えを書き切った後や書くことが分からないときに、体を揺すり落ち着かない場合がある。 ・わからないことやできないことを進んで伝えることができない。 授業づくりのポイント①へ 4. 単元指導計画(1)※目標へ	・自己理解と行動調整の弱さ ・出来ないことを認めたくない	・見直しをするなど、自分で次に行えることを見つけようとするができる。 ・「先生、書きました。」「他は分かりません。」など、自分から教師に働きかけることができる。	・分からないときのヒントを提示しておく。 ・学習の進め方を提示し、見通しがもてるようにする。 ・カードを貼ったり、わからないと言える仲間を褒めたりして、自分から聞く意識がもてるようにする。
【 書くこと 】				
教科	・話題に対してマッピングで表したり、表した材料を分類したりすることができる。 ・忘れないうちに自分の考えを書こうとするため、句読点を適切に用いながら文章を書くことが	・既習学習が理解できている ・記憶への不安と、対処方法のこだわり	・説明の効果を考え図表を用いて書くことができる。 ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法を確かめて書く	・下書きと清書用の用紙を使い分けて、句読点などの表記や語句を間違っても安心して書き直すことができるようにする。 ・声に出して読みながら確か

授業づくりのポイント⑤へ

		難しい。		ことができる。	めて、句読点の位置が分かりやすくなるようにする。
	自立	・ノートに書くときの文字や枠の配置にこだわり、書く時間がかかる。	・ノートを美しく書くこと、例と同じように書くことへのこだわり	・ノートに記入するときの時間のかけ方をコントロールすることができる。 ・状況や課題に応じて自分の考えを変えることができる。	・書く内容によって、予め、時間のかけ方を変えるように話をする。また、メモがとれる環境を整えておく。 ・例のパターンや生徒Aが選びそうなパターンを増やし、考えを変える抵抗感を減らす。
【 読むこと 】					
	教科	・説明文などの一段落を、与えられたキーワードを元に、文字数の制限に考慮しながら要約することができる。	・既習学習が理解できている	・通信文などの参考例から案内文の書き方や構成の特徴に気付くことができる。 ・案内文の特有の語句について理解することができる。	・参考例をいくつか用意し、気付きやすい環境を整える。 ・パソコンで季節の時候が調べられるように環境を整えておく。
【 言語についての知識・理解・技能 】					
	教科	・相手の話に出てくる語句について、言葉を推測することに弱さがあり、聞き返す場合がある。 ・既習の漢字の記憶に苦手さがあり、文章を記述するときに漢字を適切に用いて書いたり、正しく読んだりすることが難しい。	・漢字や語句についての知識理解の不足	・既習の漢字や語句を記憶し、それを生かして書くことができる。	・案内文などの具体物を参考例として提示し、音声と文字が一致するよう視覚的に理解を補う。 ・漢字の定着を図るための漢字プリントとその見直しを家庭学習で取り組む。 ・漢字を思い出すための手がかりとして、「漢和・国語辞典」「漢字配当表」などを用意し、自分で調べられるようにする。
	自立	・文中の語句を抜かして読んだり、違う語句に置き換えて読んだりすることがある。	・追視の弱さ	・文中の語句を正しく読むことができる。	・文字を指でなぞる・指ではさみ読みをする・定規であてて読むなど、読んでいる部分が分かりやすくなるようにする読み方を教える。

		単元の学習に関する実態	要因	付けたい力	指導の工夫
B	【 国語への関心・意欲・態度 】				
2	教科	・恐竜や化石などの図鑑を見ることに興味があり、教師に伝えようとすることがある。	・対象への興味の強さ	授 業 づ く り の ポ イ ン ト ⑤ へ	
年	自立	・雨が降っている、5時間目の授業で眠気があるなど、気分がむらがあり、俯せになることがある。 ・自分のやっていることを邪魔されるのを嫌がり、次のことへの切り替えがうまくできない。	・環境によって情緒が不安定になる ・自己理解と行動調整の弱さ		
				・話したり、質問したり、書いたりするなど最後まで学習に意欲的に取り組むことができる。 ・示された時間や指示の内容に合わせて、書くのを止めるなど自分の行動を調	・学習の見通しを提示して進度が視覚的に分かるようにする。また、できたことを褒めて認めて、自己肯定感を高め、意欲的に学習に迎えるようにする。 ・事前に「ここまで書いたらストップしようね。」と見通しをもたせ、心の準備がで

			整する力。	きるようにする。「○君が待っているよ。」など、他者の気持ちを代わりに伝えて、状況が理解できるようにする。
【 話すこと・聞くこと 】				
教科	主語、述語、修飾語がそろわず口を大きく動かさない話し方のため、伝えたいことを分かりやすく話すことができない。	情報を整理して話したり書いたりする力の弱さ	- 話の組み立て方など学習したことを生かして話すことができる。 - 口をはっきりと動かして話すことができる。	- 視覚的に話形が分かる掲示をする。 - 早口言葉などを取り入れ、口をはっきりと動かす機会をつくる。 授業づくりのポイント③へ
自立	- 聴覚の処理能力が低く、名前を呼ばれたり、質問されたりしても、それに気付かず反応しないことが多い。 - 他者の前で話すことや、自分の意志を伝えることが苦手で拒否したり、怒り出したりする。 - 自分の知っていることや興味のあること、わかったことなどを自分の発言したいときに発言する。	- 自己理解と行動調整の弱さ - 心理的な不安定さ - コミュニケーション能力の弱さ - 集団生活での経験不足 - 自己否定感 - 衝動抑制の弱さ	- 自分の聴覚的な特性を理解し、担任などの関わりの多い人以外の他者からの発言に反応したり、自分から話したりすることができる。 - 挙手や返事をしたり、「先生」と呼びかけたりして、他者がいる状況での発言の仕方が分かる。	- できたことを認めていく。 - 担任を介して、様々な人と関わる機会を増やすことで、担任以外の人との信頼関係を築き、相手の意見を聞きたい気持ちがもてるようにする。 - 話し始める前に様子を確認したり、呼びかけたりして意識が話し手に向いているか確認してから話し始める。 - カードを提示し、話を聞くときの姿勢が視覚的に意識できるようにする。 - 予め話す内容を練習しておき、自信をもって話せる事実をつくる。 - 話しても良い時か、周囲の状況、他者の気持ちを繰り返し伝える。
【 書くこと 】				
教科	- 身近な出来事や内容などの簡単な課題について、教師と相談しながら自分の考えを短い文で書くことができる。 - 自分の考えや気持ち、表記や語句の用法など、読みやすく分かりやすい文章で書くことができない。	- 興味の強さ - 既習学習が理解できている - 思い浮かんだまま書いてしまう	教師と相談しながら、主語と述語の関係や、前後の文との繋がりなどに気をつけて、自分の考えを相手に伝わる文章で書くことができる。	- 書き方の手本を用意する。 - 主語と述語を意識した視覚的に話形が分かる掲示で、書き方を補う。 授業づくりのポイント⑦へ
自立	書く文字の大きさが大きくノートの行を詰めて書くため、自分で書いた文章が読みにくくなってしまう。	- 早く書きたいという意識が強く、丁寧に書く習慣が身に付いていない。 - ノート記入へのこだわり	自分の書いた文字が把握できるノート作りをすることができる。	- ノートの行に収めて書けているときは褒めて、目指す書き方を示す。 1行ずつ空けながら書くよさを示し、促す。 - プリントなどは、記入欄を大きめにして書きやすいようにする。
【 読むこと 】				

教科	- 語彙力が乏しいため、文脈の中の語句の意味を理解しながら想像力を働かせて読むことが難しい。 - 化石や恐竜など自分の興味のあるものの図鑑や本を読んで、読んで分かったことを生かして絵に表すことができる。	- 既習学習の知識理解の不足 - 対象への興味の強さ	分からないところを教師に聞きながら、内容を理解することができる。	- 難しい言葉はかみ砕いて説明したり、補足したりして理解を補う。 - 興味のある題材を取り上げることで、想像しながら読みやすくする。 - 適度な負荷の課題を設定する。
自立	分からないことが出てくると「分からない。」「できない。」と言って俯せたり叩いたりしようとすることがある。	- 自己否定感 - 自己抑制の難しさ	- パニックになったときの対処法を身に付ける。 - 投げ出さないで課題と向き合うことができる。	- 名前を呼んだり、気持ちに寄り添う言葉をかけたりして落ち着かせる。 - 指示や説明を短く的確に行い、原因を聞いたりどこまで分かっているか確認したりする。
【 言語についての知識・理解・技能 】				
教科	- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることが得意である。 - 主語と述語や修飾語と被修飾語の照応に注意して、自分の考えが伝わるように書くことが難しい。 - 話し方や書き方が身についておらず、場に応じて使い分けることができない。	- 自分の得意なこと - 衝動性が強く、文章を頭の中で組み立ててから書くことが難しい	- プリントやテストを通して漢字を身に付けることができる。 - 自分の考えが他者に伝わるように文を書くことができる。 - 相手や目的に応じて、文章の形態に違いがあることが分かる。	家庭学習で主語と述語を意識したプリントを行い、繰り返し定着を図る。

3. 単元について

1 学年生徒 A は、小学校で国語や算数の学習を持続して取り組むことができるのは 15 分程度で、また机に向かつての学習をしていない期間が 2 年間ほどあった。そのため、国語の漢字や算数の学習で学年相応の基礎的な知識が身につけていなかったり、漢字に関しては小学校で 4 年生まで既習であるが、それ以前の漢字についても中学校の学習で活用する力が身につけていなかったりする。しかし、中学校に入ってからのはどの教科も 1 時間集中して受けることができおり、生徒 A の中学校での学習に対する意欲が見られる。国語科「書くこと」の単元「項目を整理して伝えよう 案内文を作る」は、伝える事柄・目的・相手に応じて内容が変わる。そのため、何を伝えるべきかの項目を考え、情報を整理することで、相手に伝わりやすい書き方を学ぶことができる。生徒 A は句読点が少なく、平仮名を羅列した読みにくい文章を書くことが多い。意欲が持続できることを大切にしながら、表記や語句を正しく用いつつ、相手に分かりやすく書いて伝える力を身につけることで、交流学級での学習時や日常的なコミュニケーションの場で相手に的確で誤解のないように分かりやすく意思疎通を図ることができるようにしたい。

2 学年生徒 B は、人の失敗や間違いに対して「そんな時もあります。」と発言して受け止める優しさがある一方で、自分の思いを相手に分かりやすく話したり書いたりして伝えることに困り感がある。また、自分の考えがうまく相手に伝わらなかったり、相手の考えを理解できなかったりして、相手をたたいしてしまうことがある。国語科「書くこと」の単元「説明のしかたを工夫しよう」は、人に事実や事柄を効果的に伝えるための具体的な方法論を学ぶことができる。「何を」だけでなく、「どのように」伝えるかを、4 つの説明の仕方の例を通して、具体的な書き方を知り、自分の表現の定着に繋げていく。生徒 B の自分の考えが、相手に伝わるような説明の仕方を書く力を具体的に身につけることで、交流学級で自分の思いを書く場面や話す場面で仲間との意思疎通が図りやすくなるようにしたい。

4. 単元指導計画

(1) 単元の目標

「・」…国語科の目標

「※」…自立活動に関わる目標

A 1年	観点	目標
	関心・意欲・態度	- 案内文を相手や目的に応じて、伝えるべき事柄を整理し、項目の立て方を考えて書くとしている。 - 漢字や語句の読み方や意味、使い方などを自分で聞いたり調べたりすることができる。
	話すこと・聞くこと	- 既習内容のスピーチをするときのポイントに気を付け、聞き手を意識した発表をすることができる。 - 案内文を説明するときに、指示語や接続詞を使って話すことができる。
	書くこと	- 相手に応じてわかりやすく伝えるために、項目や内容を選んで書くことができる。 - 相手に伝わりやすい順番で、内容を短くまとめて整理しながら書くことができる。 - 図表を用いたり、伝え方を変えたりして、まとめることができる。 - 書いた文章を読み返して、表記や語句の用法を確かめて書くことができる。
	読むこと	- 通信文などの参考例から案内文の書き方や構成の特徴に気付くことができる。 - 案内文の特有の語句について理解することができる。
	言語についての知識・理解・技能	- 通信文や教科書の漢字を正しく読むことができる。 - 既習の漢字や語句を用いて、正しく書くことができる。
	障がい特性に関わる事項	※選択肢の中から自分で選んで決定することができる。 ※ノートやプリントへ記述する時間のかけ方をコントロールして書くことができる。 ※自分で見直したり、自分から教師に聞いたりして、次の行動へ移ることができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。

B 2年	観点	目標
	関心・意欲・態度	説明の仕方に関心をもち、目的によりさまざまな表現の仕方があることを知り、自分の説明するものはどれがよいか考えようとするすることができる。
	話すこと・聞くこと	- 主語と述語を意識した話形を参考にして、話の組み立て方に気をつけて話すことができる。 - 口の動かし方、話す速度や音量、間の取り方などに気をつけて、他者に伝わる話し方をすることができる。
	書くこと	「恐竜」についての材料を集め、それをもとに自分の考えをまとめることができる。 - 自分が伝えたい内容を明確にし、書き方の手本を参考にして教師と相談しながら、相手に伝わる文章の構成を工夫して書くことができる。
	読むこと	分からない言葉を教師から聞いて、納得しながら文章を読むことができる。
	言語についての知識・理解・技能	- 既習の漢字や語句を用いて、正しく書くことができる。 - 相手や目的に応じて、話や文章の形態・展開に違いがあることが分かる。
	障がい特性に関わる事項	※教師の指示を聞いて、次の行動へ素早く切り替えることができる。 ※教師の指示やカードを見ながら、話をしたり聞いたりして、最後まで俯せにならずに授業を受けることができる。 ※枠や罫線の大きさに合わせて、文字の大きさを調整したり一行空けたりして、読みやすく文字を書くことができる。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて顔を上げ、再び課題に向かうことができる。 ※話したい意思を教師に伝えてから、話し出すことができる。

(2) 単元指導計画（1年 全5時間、2年 全5時間）

1年	次	時	主な学習活動	個別の目標	評価規準
	1	1	- 活動の目標や学習の見通しをもつ。 - 通信文などの案内文をもとに、案内文の形式や項目を確認する。 - 何についての案内文を書く	- いろいろな通信文と案内文を比較して、形式や項目の特徴に気付くことができる。 - 読めない漢字や語句を自分から聞いたり調べたりして、文章を正しく読むことができる。	- 通信文や教科書の文章を正しく読むことができる。 【言語事項】 - いろいろな通信文と案内文を比較して、「日付・受取人・差出人・案内文の名前・本文・記以

		か決める。 ・案内文を伝えたい相手を考える。	※案内文に掲載する内容の「コレクション展示会」について、1学期を踏まえながら、基本2組の他に伝えたい相手を自分で考えることができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。	下の項目」の特徴や、書き方・紙面構成の特徴が分かる。 【読むこと】 ・案内文特有の語句について、聞いたり調べたりして理解することができる。【読むこと】 ・自分で納得して展示会の案内文にすると決めることができる。 【関心・意欲・態度】
2	・案内文の内容に合わせて、「伝える事柄・目的・相手・項目」を考える。 ・項目ごとに書くべき内容を書く。	※「コレクション展示会」の案内文の相手を相談しながら自分で決めることができる。 ・案内文の内容に合わせて必要な項目を選び、内容を考えて書くことができる。 ・分からない漢字や語句を自分から聞いたり自分で調べたりして正しく書くことができる。 ※書いたところを自分で見直したり、自分から教師に尋ねたりして、次の項目へ移ることができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。 ※清書ではないので、全て書き直さずに文章を付け足しながらノートに記入することができる。	・相談しながら自分で納得して基本2組の他に案内文の相手を決めることができる。 【関心・意欲・態度】 ・「事柄・目的・相手・日時・場所・展示物の種類・その他（取り扱いの注意）」など、案内文の内容に合わせて項目を決め、内容を書くことができる。 【書くこと】 ・既習の漢字や語句を自分から聞いたり調べたりして、正しく書くことができる。 【言語事項】 ・書いた文章を読み返して、既習漢字の未使用や書き間違い、句読点の位置などを推敲することができる。 【言語事項】	
3	・案内文を比較し、伝えたい相手に合わせて項目や内容、伝え方を選ぶ。 ・案内文の項目の配置を、参考を元に考え、下書きを書く。	・伝えたい相手に合わせて、項目、内容を選ぶことができる。 ・伝えたい相手に合った伝え方（文体）を選んで書くことができる。 ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法を確かめながら簡潔に書くことができる。 ※書いたところを自分で見直したり、自分から教師に尋ねたりして、次の項目へ移ることができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。 ※清書ではないので、工夫が分かるようにノートに記入して、時間内に書くことができる。	・伝えたい相手に合わせて、項目と内容を選び、相手の年齢に合わせて伝え方（文体）を選んで書くことができる。 【書くこと】 ・書いた文章を読み返して、句読点の位置などに気をつけて一文を簡潔に書くことができる。 【言語事項】	
4	・案内文の内容が分かりやすくなるための工夫を、参考を元に考えて書く。 ・案内文の下書きを推敲する。 ・案内文の清書をする。	・2つの観点について、案内文を推敲することができる。 ・内容を確定し、パソコンで清書することができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。	・見出しや項目の書体の大きさや太さを変えたり、図表を付け加えたりして内容が分かりやすくなるまとめ方をすることができる。【書くこと】 ・推敲の観点のうち、「言葉づかい・誤字脱字・一文の量」「見	

					やすい紙面」について案内文を推敲し、パソコンで清書することができる。 【書くこと】【言語事項】
	2	5	- 作成した案内文の発表の練習をする。 - 案内文の発表をする。	- 既習内容のスピーチをするときのポイントに気を付けて、発表することができる。 - 案内文を説明するときに、項目と本文の繋げ方や図表の示し方を、指示語や接続詞を使って話すことができる。 - 聞き手の受け止め方や理解の状況を確認しながら発表することができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。	「教室の後ろまで届く声で」「口を指三本分開けて」「間を取って」スピーチすることができる。 【話すこと・聞くこと】 「聞き手を意識する」のポイントで、聞き手の表情を見たり、聞き手に内容が把握できたか確認したりしながら、話すことができる。 【話すこと・聞くこと】

2年	次	時	主な学習活動	個別の目標	評価規準
	1	1	- 学習の目標や学習の見通しをもつ。 - さまざまな説明の仕方があることを理解する。	4つの説明の仕方について、例と照らし合わせながら具体的に理解することができる。 ※教師の指示やカードを見ながら、話をしたり聞いたりして、最後まで俯せにならずに授業を受けることができる。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて顔を上げ、再び課題に向かうことができる。 ※一行空けてノートに記入することができる。	- 説明の仕方に関心をもち、「順序立てて」「大事なことを最初に」「項目を立てて」「比較して」の4つがあることを知ることができる。 【関心・意欲・態度】 4つの説明の仕方と、それぞれの例を繋げて具体的に理解することができる。分からない言葉を教師から聞き理解することができる。 【読むこと】【聞くこと】
		2 3	- 説明する相手を決める。 - 説明の目的を明確にし、効果的に伝わる説明の仕方を確認する。 - 説明する「恐竜」を2体選び、特徴を書き出して整理する。 - それぞれの恐竜の観点を比べて、共通点や相違点、長所、短所などを整理する。	- 恐竜の説明をする「相手」「目的」「種類」を選ぶことができる。 - 説明のしかたのうち、「比較して説明する」が効果的であると確かめることができる。 - 選んだ恐竜について材料を選び、その中から「体長、体重、食性、戦い方」など説明する観点を決めて書くことができる。 2体の恐竜の観点を比べて、共通点や相違点、相手に恐竜の強さが特に伝わる観点（相違点の山場）などを整理して分けることができる。 - 既習漢字や語句を用いて書くことができる。 ※教師の指示やカードを見て、話をしたり聞いたりして、最後まで俯せにならずに授業を受けることができる。	- 教師と話を膨らませながら恐竜の説明にふさわしい仕方を選んだり、「強さを伝える」などの目的を決めたりすることができる。 【関心・意欲・態度】 - 身近な相手を思い出して、説明したい相手を自分で考えることができる。 【関心・意欲・態度】 - 自分で選んだ恐竜について図鑑や資料を見て材料を集め、わかったことをもとに、観点を決めて書くことができる。 【書くこと】 - 共通点や相違点、相違点の山場など、2体の恐竜の特徴を比べながら観点を整理することができる。 【書くこと】

			※教師の指示を聞いて、恐竜調べを素早く切り替えることができる。 ※プリントの枠の大きさに合わせて、文字の大きさを調節して書くことができる。 ※話したい意思を教師に伝えてから、話し出すことができる。	・既習漢字や語句を用いて、書くことができる。 【書くこと】
	4	・説明文を比較し、恐竜の強さを効果的に伝えるための順序を考えて文章にまとめる。	・資料の比較を通して、共通点と相違点の順序、一番伝えたい話の山場の文中での位置、具体例を付け足して書くことに気付くことができる。 ・2体の恐竜の観点を整理した表をもとに、必要な情報と削除する情報に分けることができる。 ・気付きを生かして、恐竜の強さが効果的に伝わる順序で説明文を書くことができる。 ※教師の指示やカードを見て、話をしたり聞いたりして、最後まで俯せにならずに授業を受けることができる。 ※プリントの枠の大きさに合わせて、文字の大きさを調節して書くことができる。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて顔を上げ、再び課題に向かうことができる。	・「先に共通点、後に相違点」「話の山場を後に書く」「具体例を付け足す」ことで、2体の恐竜を効果的に比較した説明文を書くことができる。 【書くこと】
2	5	・書いた説明文を発表する。	・既習内容のスピーチをするときのポイントに気を付けて、発表することができる。 ※教師の指示やカードを見ながら、話をしたり聞いたりして、最後まで俯せにならずに授業を受けることができる。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて教卓の前に出て、再び課題に向かうことができる。	・「相手の所まで届く声で」「口を指三本分けて」「聞き手の方を三回見ながら」「間を取って」スピーチすることができる。 【話すこと・聞くこと】

5. 研究について

(1) 研究主題

「一人一人が生き生きと主体的に取り組む、学びを実感できる生徒の育成」

～豊かに自己の思いを表現しながらかわり合う活動を意図した学習指導を通して～

(2) 研究内容

① 単元でつきたい力が身につくようにするために、生徒の実態把握に基づく国語の指導の工夫

・生徒の実態把握

つきたい力が身につくようにするためには、生徒の実態分析をし、得意・興味のあることや困り感を把握して、そこからつきたい力を明確にし、その力がつくための単元を設定する。本単元は、「書くこと」の単元であるため、日頃の実態把握から、1学年生徒Aは、自分の興味のあるコレクションを、2学年生徒Bは部活動で意欲的に描いている恐竜を題材として用いることで、単元を通して興味をもち続け、負荷のかかる課題（適度抵抗の課題）に対しても取り組むことができるのではないかと考えた。

② 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、表現力を高める指導の工夫

- ・生徒のつまずきの分析と解決方法の提示のあり方

生徒の実態分析とつきたい力の明確化を受けて、環境設定（辞典や教科書、パソコンなどを用いて自ら調べられる環境づくり）、関わり合う場の設定（自ら教師や支援員に聞く機会・振り返りを伝え合う場・選ぶ場面の設定）、解決方法の提示の工夫（実物の提示・書き方の手本）、困り感を少なくする工夫（カードの提示・スモールステップ・プリントの用意・話形の提示）などの指導・援助の工夫を行う。

③ 自己の学びを実感し、新たな歩み出しを生む評価の在り方

- ・「できた」「わかった」を実感し、次への意欲を生む振り返りの工夫

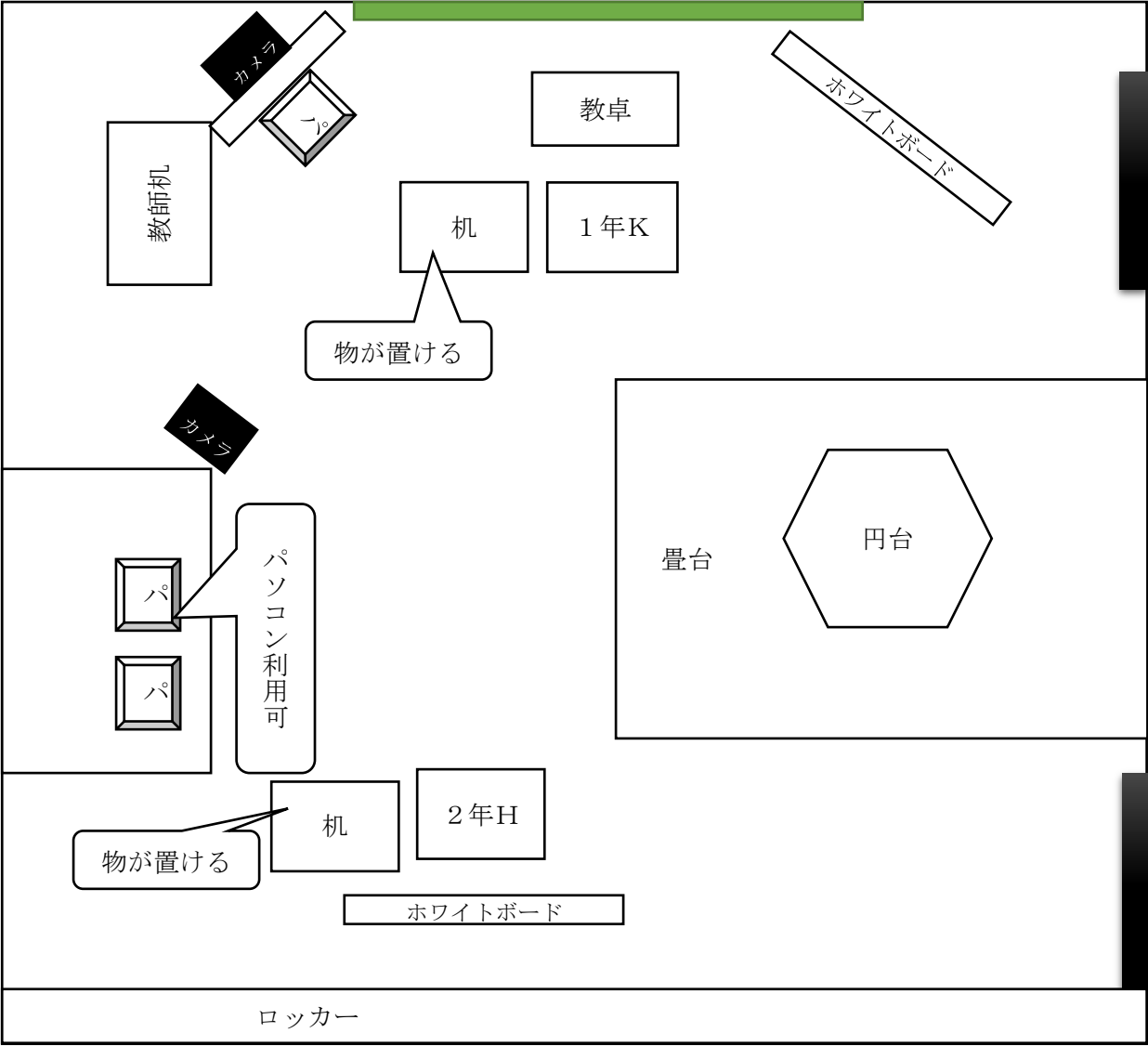
課題が達成できたらノートやプリントにシールを貼り、目に見える形で頑張りを認めていく。また、振り返りの時間では生徒が本時できたこと（分かった・知った・がんばったなど）を発言する時間を設けることで、言語活動を高めながら、生徒自身が課題に対する達成感を味わうことができるようにする。

6. 本時の展開（1年 3／5、2年 4／5）

本時のねらい	
A（1年）	B（2年）
・相手が異なる案内文を比較する活動を通して、相手によって書き方が異なることに気づき、自分の伝えたい相手に応じて「項目や内容、伝え方（文体）」を選んで、整理しながら分かりやすく書くことができる。 ※選択肢の中から自分で選んで決定することができる。 ※書いたところを自分で見直したり、自分から教師に尋ねたりして次に進むことができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。 ※大幅に書き直さず、時間をかけ過ぎないでノートを書くことができる。	・資料を比較する活動を通して、恐竜の強さを伝えるためには順序が大切だと気づき、「共通点と相違点の順序」「山場の位置」「具体例を付け足す」ことで、2体の恐竜の説明文を効果的に書くことができる。 ※教師の指示やカードを見て、書くときと聞くととき、話すときの切り替えを素早く行うことができる。 ※プリントの枠の大きさに合わせて、文字の大きさを調節して書くことができる。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて顔を上げ、再び課題に向かうことができる。 ※話したい意思を教師に伝えてから、話し出すことができる。

学習活動	学習活動		動 き	学習活動	
	○生徒の姿	*指導・援助		○生徒の姿	*指導・援助
学 習 過 程	1. 前時の学習内容を振り返り本時の学習内容を確認し、見通しをもつ。	A（1年） ○掲示物やプリントを振り返り、本時の課題に意識を向ける。 ※今後の学習の予定を掲示し、見通しがもてるようにする。 ○用意された項目を二つの異なる相手のうち当てはまる方に分ける活動をする。 *作業的な活動で理解を促す。また、二つとも当てはまらないもの、当てはまるものも準備し、機械的な作業にならず考えられるようにする。	担 任 Aの*の気付きに付け足しをする。 Bは支援員と確認。 担任は主にBへ指導・支援するが、適宜Aへ。 担 任	B（2年） ○掲示物やプリントを振り返り、本時の課題に意識を向ける。 ※聞くときは物を触らず手を膝の上に置くことで、書くときとの切り替えが行いやすいようにする。 ○「共通点と相違点の順番」「話の山場の位置」「具体例の有無」が異なる2つの資料を比較し、順番の違いや相手への伝わりやすさを考える。 *資料を提示し比較することで、共通点と相違点を書く順序を分かりやすくする。	
	2. 課題をつかむ。	自分が伝えたい相手に合わせて①から④を整理して、案内文の下書きを書こう。		恐竜の強さを効果的に伝えるための順番を考えて、文章を書こう。	
	3. それぞれが自分の課題に取り組む。	*「①項目 ②内容 ③伝え方（文体） ④一文の読みやすさ」で課題を具体化し、わかりやすくする。 ○前時のノートから伝えたい相手に必要な項目を選び出し、案内文を参考にしながらプリントに記入する。 ※前時のノートに付け足したり、一部だけ書き直したり、本時のプリントに直接書いたりして、下書きであるよさを生かして書くことができる。 ※自分から支援員に聞いたり調べる環境を整えたりして自分で推敲できるようにする。 ※文章を読むときに、文字を指でなぞる ・指ではさみ読みをする方法を教える。 ※順序や配置の仕方などで迷っている場合は選択肢を与えて、どちらの方が分かりやすいか自分で選んで決定できるようにする。		○前時に整理した共通点と相違点を確認し書く順序を決める。 *恐竜に置き換えやすい穴埋め式の手本を用意し、観点を見ながら書きやすいようにする。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて顔を上げ、再び課題に向かうことができる。 ※支援員がそばにつき、どこの観点を書けばよいかわからないときに聞きやすくなるようにする。 ※プリントの枠の大きさに合わせて、文字の大きさを調節して書くことができる。	
	4. 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。	評価規準 伝えたい相手に合わせて項目と内容、伝え方（文体）を選び、簡潔に案内文の下書きを書くことができる。【書くこと】 ○課題についてわかったことを発表し、できたところにシールを貼る。 僕は、○○（相手）に案内文を書くので○○に合わせて場所や注意の項目を選びました。また、「～です。」という書き方で○○に合わせて書きました。		評価規準 「先に共通点、後に相違点」「山場を最初に書かない」「具体例を入れる」ことで、2体の恐竜を効果的に比較した説明文を書くことができる。【書くこと】 ○課題についてわかったことを発表し、できたところにシールを貼る。 ※話形を参考にする。 僕は、共通点を最初に書いて、相違点を後に書きました。一番伝えたいことは後に書きました。例を入れると伝わりやすいと分かりました。	

7. 環境設定図



※ 当日のみ固定カメラ二台を設置。

授業づくりのポイント

【ポイント①】（指導・支援の一貫性）

「2. 生徒の実態」による生徒の実態把握と要因の捉えから、付けたい力を明確にした。それを元に、「4. 単元指導計画」で単元の目標を設定した。一貫した「実態把握・目標・手立て・評価」により生徒に付けたい力を育むことができる。

【ポイント②】（自立活動のねらいの設定）

特別支援学級（自閉症・情緒障がい）の生徒の障がい特性を受けて、国語科のねらいと合わせて、個々に付けたい自立活動のねらい（※印に表記）を明確にする。

【ポイント③】（授業開始3分前の時間の活用）

生徒の困り感に応じて、口をはっきりと動かす機会を設け、話すことに対して抵抗感が減るようにする。

【ポイント④】（担任と支援員の連携）

一単位時間中の担任と支援員の動きを明確に位置付けることで、支援をスムーズに行う。

【ポイント⑤】（見通しをもたせる工夫）

これまでの学習内容や今後の見通しが分かる掲示物により、生徒が自らの学習内容を確認して取り組むことができる。

【ポイント⑥】（生徒の困り感に応じた支援の工夫）

Bには絵と短文で視覚的情報を提示しながら分かりやすく伝える。
Aには下書きなので間違えても書き直せることを話し安心して取り組めるようにするとともに、活動を通して課題の理解を促す。

【ポイント⑦】（生徒が課題を達成するための工夫）

枠が大きい穴埋め式のプリントと手本を用意し、生徒が自分で進められるようにする。

6. 本時の展開（1年 3/5、2年 4/5）

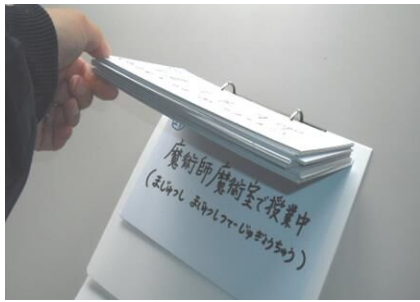
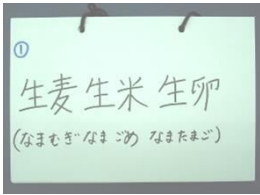
本時のねらい	
A（1年）	B（2年）
・相手が異なる案内文を比較する活動を通して、相手によって書き方が異なることに気づき、自分の伝えたい相手に応じて「項目や内容、伝え方（文体）」を選んで、整理しながら分かりやすく書くことができる。 ※選択肢の中から自分で選んで決定することができる。 ※書いたところを自分で見直したり、自分から教師に尋ねたりして次に進むことができる。 ※文中の語句を抜かしたり置き換えたりせず、文章を正しく読むことができる。 ※大幅に書き直さず、時間をかけ過ぎないでノートを書くことができる。	・資料を比較する活動を通して、恐竜の強さを伝えるためには順序が大切だと気づき、「共通点と相違点の順序」「山場の位置」「具体例を付け足す」ことで、2体の恐竜の説明文を効果的に書くことができる。 ※教師の指示やカードを見て、書くときと聞くとき、話すときの切り替えを素早く行うことができる。 ※プリントの枠の大きさに合わせて、文字の大きさを調節して書くことができる。 ※パニックになったときに、教師の声を聞いて顔を上げ、再び課題に向かうことができる。 ※話したい意思を教師に伝えてから、話し出すことができる。

学習活動	①生徒の姿	*指導・援助	※特性に応じた支援
学習過程	1. 前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容を確認し、見通しをもつ。	A（1年） ○掲示物やプリントを振り返り、本時の課題に意識を向ける。 ※今後の学習の予定を掲示し、見通しがもてるようにする。 ○用意された項目を二つの異なる相手のうちどちらに当てるかを分ける活動をする。 ※作業的な活動で理解を促す。また、二つとも当てはまらないもの、当てはまるものも準備し、機械的な作業にならず考えられるようにする。	動き 担任がBに説明中 Aは支援員と活動。 Bは支援員と確認。 担任がAに説明中 Bは支援員と確認。 担任は主にBへ指導・支援するが、適宜Aへ。
	2. 課題をつかむ。	自分が伝えたい相手に合わせて①から④を整理して、案内文の下書きを書こう。	
	3. それぞれが自分の課題に取り組む。	*「①項目 ②内容 ③伝え方（文体） ④一文の読みやすさ」で課題を具体化し、わかりやすくする。 ○前時のノートから伝えたい相手に必要な項目を選び出し、案内文を参考にしながらプリントに記入する。 ※前時のノートに付け足したり、一部だけ書き直したり、本時のプリントに直接書いたりして、下書きであるよさを生かして書くことができる。 ※自分から支援員に聞いたり調べる環境を整えたりして自分で推敲できるようにする。 ※文章を読むときに、文字を指でなぞる・指ではさみ読みをする方法を教える。 ※順序や配置の仕方などで迷っている場合は選択肢を与えて、どちらの方が分かりやすいか自分で選んで決定できるようにする。	
	4. 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。	評価規準 伝えたい相手に合わせて項目と内容、伝え方（文体）を選び、簡潔に案内文の下書きを書くことができる。【書くこと】 ○課題についてわかったことを発表し、できたところにシールを貼る。 僕は、○○（相手）に案内文を書くので、○○に合わせて場所や注意の項目を選びました。また、「～です。」という書き方で○○に合わせて書きました。	

【ポイント③】

(授業開始3分前の時間の活用)

担任や生徒が調べたり考えたりした早口言葉のカードを提示し、話す練習をすることで、はっきりした話し方に加え、話すことに自信がもてるようにする。



【ポイント⑥】

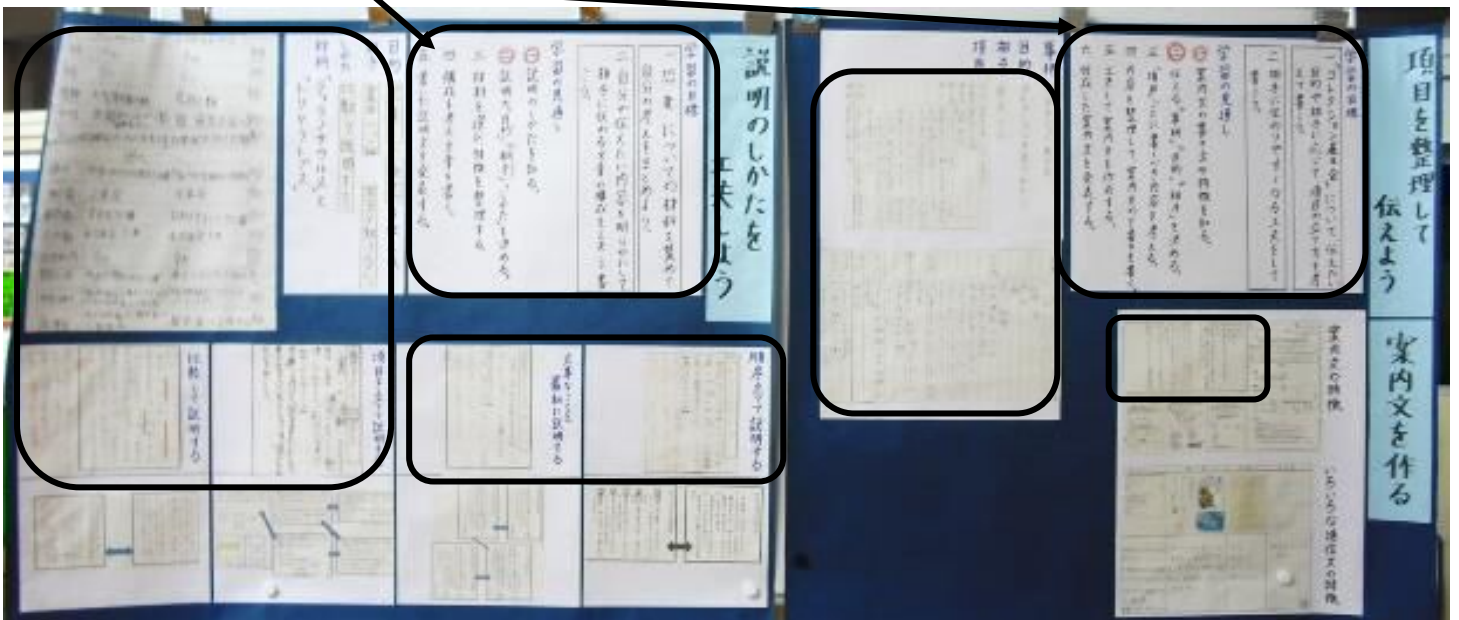
(生徒Bの困り感に応じた支援の工夫)

生徒の困り感に応じて、教師の机上などに絵と短文で表したカードを立てかけておき、生徒自ら意識できるようにする。



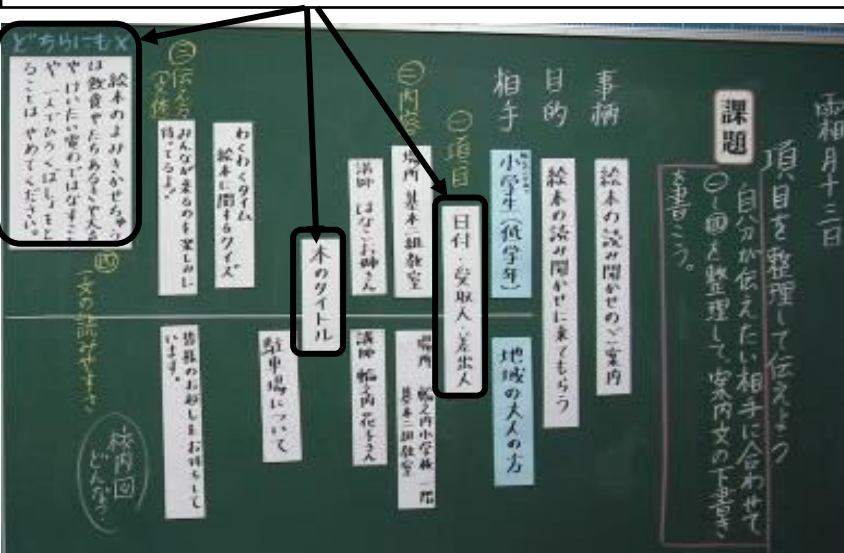
【ポイント⑥】(見通しをもたせる工夫)

学習内容の見通しがもてるようにし、生徒が自ら次の学習内容を確認して取り組むことができる環境を整えておく。また、生徒が書いた文字を使用することで、学習に対する意欲を高めたり、自己肯定感を高めたりすることができるようにする。



【ポイント⑥】(生徒Aの困り感に応じた支援の工夫)

案内文に書くとよい項目やその内容が書かれた貼り紙(本のタイトル、2通りの場所、駐車場など)について、小学生と地域の大人の方のうち、ふさわしい相手を選んで黒板に貼り紙を貼る作業的な活動を行った。選択決定する力を付けるとともに、考えながら課題化が行えるようにする。



【ポイント⑦】(生徒が課題を達成するための工夫)

生徒の実態に合わせた枠が大きい穴埋め式のプリントと、その手本を用意する。生徒が自分で調べた観点を元に、自分で比較しながら順序に気を付けて書き進められるようにする。

